

水稲の穂発芽性検定における判定精度向上のための新たな判別品種

山崎 哲・佐藤吉昭<sup>1)</sup>・永元良知・二宮淑恵<sup>2)</sup>  
 (大分県農業技術センター・<sup>1)</sup> 大分県農政部・<sup>2)</sup> 大分地方振興局農業振興普及センター)

Akira Yamasaki, Yoshiaki Sato, Yoshinori Nagamoto and Yoshie Ninomiya :  
 Selection of New Standard Varieties for Improving Viviparity Tests in Paddy Rice

水稲の品種特性の一つである穂発芽性は、玄米の外観品質や食味に直接影響を及ぼす。そのため、育種や奨励品種選定において重要な調査項目となっている。

大分県農業技術センター水田利用部では1990年から穂発芽性検定を開始し、1998年に作期および熟期別に判別品種を選定した<sup>1)</sup>。しかし、一部の作期および熟期で適当な判別品種が選定されていなかったこと、まれに判別品種間で難易が逆転すること、低標高地の水田利用部と高標高地の同久住試験地での判別品種の発芽率の傾向が異なること、判別品種が延べ30品種と多いことが問題となっていた。そこで、判別品種の見直しを行い判定精度の向上を図った。

1. 材料および方法

1999年から2002年に、既存の判別品種延べ30品種と新たな判別品種候補延べ16品種の合計46品種について、第1表に示す方法で穂発芽性検定を行った。検定は、大分県農業技術センター水田利用部および同久住試験地で実施した。

第1表 穂発芽性検定の手順

- ① 検定用の穂を成熟期後に各5穂採取する。
- ② チウラムベノミル水利剤 200 倍液に 24 時間浸漬する
- ③ 30℃多湿条件下に置床する。
- ④ 置床後3,4,5日目に発芽率を達観調査し、平均値を当該品種の発芽率とする。
- ⑤ 同時に処理した判別品種の発芽率と比較して穂発芽性の難易を判定する。

2. 結果および考察

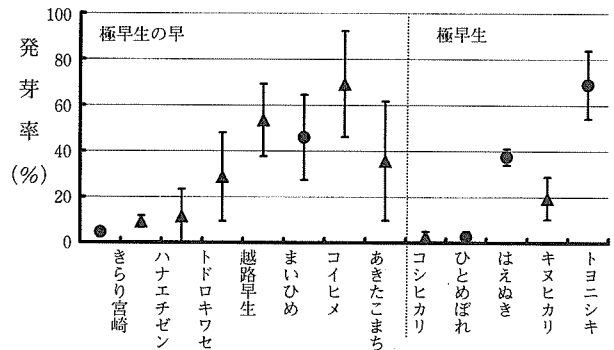
4 年における供試品種の穂発芽性検定での発芽率の平均値および標準偏差を第1～3図に示した。

この結果から、発芽率の年次間変動が小さく、且つ低標高地の水田利用部と高標高地の久住試験地で同様の傾向を示す品種を、作期および熟期ごとに穂発芽性難・中・易各1品種選定した。この判別品種を補完するため、穂発芽性「やや難」にユメヒカリ、「やや易」にトヨニシキ、黄金錦、ニシホマレを選定した。

以上の結果から、第2表に示すように、新たな判別品種延べ7品種を加えた延べ21品種を判別品種として採用した。

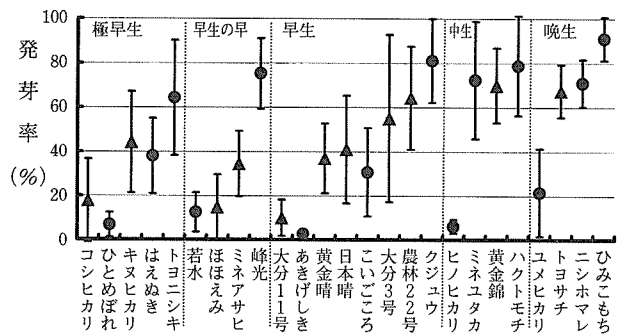
引用文献

- 1) 佐藤吉昭・大友孝憲・清水康弘：大分農技セ研報 28, 33-44, 1998.

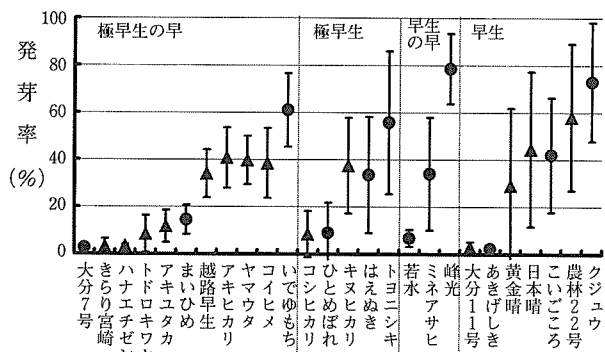


第1図 早期期栽培 (水田利用部) における発芽率

注) a) ●は既存の判別品種, ▲は新たな判別品種候補の発芽率を示す。  
 b) 垂直線は年次間差 (標準偏差) を示す。



第2図 普通期栽培 (水田利用部) における発芽率



第3図 普通期栽培 (久住試験地) における発芽率

第2表 作期および熟期別穂発芽性検定判別品種一覧

作期	熟期	難	やや難	中	やや易	易
早期	極早生の早	大分7号		まいひめ		
	極早生	コシヒカリ		はえぬぎ	トヨニシキ	
	極早生の早	大分7号		まいひめ		いでゆもち
普通期	極早生	コシヒカリ		はえぬぎ	トヨニシキ	
	早生の早	若水		ミネアサヒ		峰光
	早生	あきげしき		こいごころ		クシユウ
	中生	ヒノヒカリ			黄金錦	ハクトモチ
	晩生		ユメヒカリ		ニシホマレ	ひみこもち

注) a) ゴシック体が今回追加した判別品種。  
 b) 普通期の極早生の早群は高標高地のみで用いる。